

	センス・オブ・ワンダー	ふゆめがっしょうだん	ひとしずくの水	じめんのうえとじめんのした	シロナガスクジラより大きいものっているの	いのちのつながり
主題 (テーマ)	神秘さや不思議さに目を見張る心、感性(センス・オブ・ワンダー)をいつまでも失わないでほしい					
内容	甥のロジャーとともに探検し、経験した美しい自然、生命の不思議、発見の喜びを詩情豊かに描いている					
著者	レイチェル・カーソン著 上遠恵子訳					
絵 (写真)	表紙の写真も水面のようにも化石の層のようにも見えるなど自然の中の切り取られた光景が内容をより際立たせる					
文章 (ことば)	・生きること、生かされていること、その喜びと不思議さを改めて感じ、発見できる詩的な文体 ・自然へのやさしいまなざしが伝わってきて、読後感が温かい ・感じることで、知ることもさらに深まると実感する ・そのときはわからなくても、その感じたことが、あのときの、というふうにつながり、豊かな感受性が育まれる、といった力強い後押しのような文章。					
全体の イメージ (装丁)	軽装版といった手に取りやすいサイズだが、とてつもなく大きく深い。内容にふさわしい装丁の美しさ。					
発見 (五感、 特筆箇所)	「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではない、という言葉があり、カーソンの最後のメッセージであるこの本の世界観が端的に表れている					
感想 (印象)	好奇心・探検・発見することは生命のささやきに耳を澄ますこと、ギスギスした日常の中でも空を見たり、音に耳をかたむけたり、道端の草に目をとめたり、と豊かにさせてくれる					
その他	佑学社版の後、新潮社も出版され装丁や写真等大きな違いがある					

	せいめいのれきし	いっぽんの鉛筆のむこうに	せかいのひとびと	よわいかみ つよいかたち	まほうのわ
主題 (テーマ)					
内容					
著者					
絵 (写真)					
文章 (ことば)					
全体の イメージ (装丁)					
発見 (五感、 特筆箇所)					
感想 (印象)					
その他					